

キラリ わたしの学校

～笑顔あふれるお弁当の日～

北中学校では、食育の一環として給食のない日に自分でお弁当を作って学校に持ってくる「お弁当の日」を設けています。自分で完璧に作るコースや作る手伝いをするコース、作ってもらったことに感謝するコースなどを選び、自分の力やその日の状況に応じてお弁当を作ります。お弁当の日には作ったお弁当を友達に見せたり、作り方を紹介し合ったりすることで給食とは一味違った楽しみを味わい、思わず笑顔があふれます。また彩りや味、栄養バランスについて自己評価をすることで、命をつなぐ食について振り返る機会にもつながっています。

生徒は「毎日献立を考え、料理を作ってくれる親の大変さが分かった」とお弁当作りを通して感じたことを話してくれました。また「できるだけ冷蔵庫に

北中学校

問い合わせ 学校教育課(☎508212)
北中学校(☎21352)



↑自分たちで作ったお弁当を持ち寄り、みんなで楽しいお弁当の時間を過ごしています。

ある食材を使うことで食材を無駄にしないようにしている」「汁気の少ない食材や腐りにくい食材を選んで使っている」などと工夫して作っている様子が見えます。

校内には生活科学部の生徒が考える「おすすめメニュー」を掲示し、生徒が自由に持ち出しができるようになっています。調理のポイントや野菜を切るときのコツなどが書かれたレシピを参考に生徒たちはメニューを考えています。

この取り組みを通じ、食への感謝を育む心を育て、食への関心を高めています。また準備から完成まで家族と相談しながら進めることで家族と触れ合う時間作りにもつながっています。



Name
いまい 今井 菜々美さん
あおき 青木 彩夏さん

本との出会い

図書館司書がセレクトした新刊情報

開館時間 午前9時～午後8時(土・日曜日、祝日は午後5時まで)
休館日 月曜日
問い合わせ 図書館☎21669

青空と逃げる



著者▷辻村 深月
もう少しだけ、2人で逃げてみよう。深夜の電話が、母と息子の日常を奪い去った。疑心、恐怖、そして怒り。壊れてしまった家族が、たどり着く場所は…

少数異見



著者▷水谷 修
ちょっと見方を変えれば、違う世界が、違う自分が見えてくる。日本の深刻な社会問題を通して「考える力」の具体的な磨き方を夜回り先生がわかりやすく解説。

いきもの人生相談室



著者▷小林 百合子
夫婦の倦怠期、子どもの偏食、ブラック企業。なぜ人間は悩むのか。現代社会よりもはるかに厳しい野生の世界で生きる動物たちが、人間の深刻な悩みにアドバイス。

人権を考える

問い合わせ 生涯学習課(☎26888)

～女性の人権～

女性への人権侵害

配偶者やパートナーからの家庭内暴力が後を絶ちません。内閣府の統計には「3人に1人の女性がパートナーから暴力を受けたことがある」とあり、私たちの身近な所に配偶者やパートナーからの暴力に苦しんでいる、または苦しんだことがある女性がいるということです。

ほかにもセクシュアルハラメントやストーーカー行為なども後を絶たず、最近では「AV出演強要」「JKビジネス」など、若い女性に対する人権侵害も増えています。

意識の変革が必要

これらの被害者は、身体に受けた傷以上の精神的な苦しみを背負います。その結果、アルコールや薬物に依存したり、うつ病になったりすることもあります。自殺するケースもまれではありません。

女性の人権については「女子に対するあらゆる形態の差

別の撤廃に関する条約」「男女雇用機会均等法」「男女共同参画社会基本法」「育児・介護休業法」などにより差別意識撤廃に向けて取り組んでいます。しかし現実には「男は仕事、女は家庭」というような男女の役割を固定的に捉える意識はまだまだ少なからず残っています。「男だから、女だから」といった、男女それぞれの中の一人一人の心の中にある意識を変えていかなければなりません。

家庭では配偶者やパートナーは自分と対等な関係であることを意識することが大切です。職場では自分の言動が相手にどう受け取られるかを考えることが大切です。いずれにしても、相手を尊重することで、女性軽視の行動が少なくなるのではないのでしょうか。

女性が人権侵害を受けた場合、気軽に相談できる場所が必要で、女性のための人権相談所や電話による相談窓口などを設け、少しでも苦しみを減らせるようにしていかなければなりません。特に配偶者などによる家庭内暴力被害

人権尊重の社会の実現

者は、虐げられることによって、立ち上る気力さえ奪われていることがあります。被害から抜け出すためには周囲の助力が不可欠です。

市民が安心して暮らせる地域社会の実現のために、講演会の開催、研修会や指導者養成講座の実施など人権に関する活動を継続しています。

家庭や職場、地域において、人権を尊重する態度や行動を取ることに、女性だけでなく全市民にとって差別や偏見のない、明るく過ごしやすい社会になっていくのではありませんか。

女性の人権ホットライン

ひとりで悩まず電話してください
☎ 0570・070・810
受付時間 平日(午前8時30分～午後5時15分)
※相談は無料で、秘密は厳守します